

## (70代女性)

2週間程前、息子からラインがきました。

白い大きなマグカップには、青い字でスパシーナマーチと書かれていました。

ロシア語で「ありがとうお母さん！」と感謝の意味らしいのですが、とても嬉しい反面、複雑な気持ちでした。

「ああ本当に薬と完全に切れたのだろうか。あの子にとってはひどい人生だったけど、産まれてきて良かったと、今思っているのだろうか。」色々頭に浮かびます。

息子が中2の12月、外は雪が降り、とても寒い夜でした。

今から8年前に亡くなった主人は、必ず晩酌をする人で、ちょっと飲みすぎると、娘には絶対手を出さないくせに、私と息子にはたびたび手を挙げる人でした。

その晩も、かなり飲んでいました。

「おい、灯油を入れてこい。」友達が遊びに来ていた息子は、あまり気に入った返事をしなかったようです。

怒った主人は外に子供を連れ出して、ボコボコ殴っていました。

結婚するまで一度も人に殴られたこともない私は、ともかく怖くて身のすくむ思いでした。

後で何度も思ったのですが、なぜこの時に死にももの狂いで子供を庇わなかったのか。

卑怯にも私は何もできなかったのです。

最後にはコンクリートに頭を打ち据えて「俺にかかってこれないのか」とばかな事を言う父親に身の危険を感じた息子は向っていきました。

泥酔していた主人はアツという間もなく倒れてしまいました。

大事な家族の愛を全てなくした夜でした。

翌日から息子はガラリと変わりました。

それでなくとも多感な中2の時代、あまりの悲しみに精神が壊れてしまったのだと思います。

そのうち夜遊びをしたり、シンナーを始めたり、成績は見る間に下がっていきました。

数年後、覚醒剤を覚えてからは、世にも恐ろしい形相で私を追いかけて来たり、多重人格の症状を現してきました。

薬を止めさせるには刑務所に入れる外ない、と単純に考えた私は、警察に通報し、結局その後何年間も同じ事の繰り返しになってしまったのです。

3年前、何となく異変を感じました。

でももうすぐ50歳近くにもなろうかという時期にまた刑務所に入れたら、人生何の為に産まれてきたのか分かりません。

それまでに色々お世話になっていたある刑事さんに相談しました。

「薬のない環境だったら誰でも止められる。でも手に入る所で自分の意志で止めてこそ

本当に止めた事になるのでは？」

本当だ、と思い通報するのは止め、様子を見る事にしました。

その頃「母親が甘やかすからダメなんだ」と周りに言われていたこともあり、家を売り、仕事も辞めて、息子と離れた所で生活するようになっていました。

その後、本人も頑張ったと思いますが、やっと2年近く前から正業につき、働くようになりました。

夢のようです。

薬物は人生を狂わせてしまいます。

残りの人生を大事に生きて、愛のある普通の生活をしてくれるのを祈るばかりです。